



## 新潟駅 万代広場東西連絡通路夜間工事 / 5月 ペデストリアンデッキの裏側に有孔折板材を施工しました!



左:完成目前のペデストリアンデッキ  
右:高所作業車を使っての夜間工事の様子

冬から春にかけて、ちょっと変わったお仕事をさせていただきました。当社が今まで関わったことのない鉄道関連、それも珍しく夜間工事というもの。この春話題になっていた新潟駅(万代広場東西連絡通路)の工事です。建築板金業である当社が交通インフラの工事に関わることはなかなか無いことですが、夜間工事は食品工場

や厨房などの就業時間外にステンレス板を張るといった板金仕事以外したことはありません。さらに、初めての元請会社さんに初めての現場、初めての材料による初めの作業、という初めて尽くしの仕事です。初めての材料は鋼板製の有孔折板で、いつも取り扱っている折板屋根材とは似て非なるものでした。この有孔折板材は、主に土木業界

で使用されてきた歴史があり、雪国に住む私たちにも馴染みのある道路の防風・防雪柵に採用されていて、見た目は穴あきの大きな波板のようなものです。

それが近年、丈夫で軽量、ただの丸いパンチングでしかなかった穴も加工技術の向上で多彩なデザインカットと豊富なカラーが実現したことで見直され、おしゃれで近代的な建物に用いられるようになったのです。

社長がまだ専務だった頃、関東で有孔折板が外観装飾にカッコよく取り入れられたビルを見て、「いつかこんな仕事をしてみたいな」と材料や値段まで調べてみたことがあるそうで、かれこれ7~8年越しに叶えられたそうです。

当社が施工を担当したのは、新潟駅をバスが東西に通り抜けできるように新設される連絡通路を跨ぐ形で設置されたペデストリアンデッキの裏側部分で、高所作業車に乗って有孔折板材やアルミ製パネルを張ってゆくというもの。

5月中旬で予定された工事を無事終了した職長のMさんによると、担当作業員は基本4名で、21時に会社集合、バスの運行終了後に通行規制された



▲通行止めの必要のない場所はもちろん日中の工事でも対応

22時から作業を開始し、途中30分休憩を2回挿んで翌朝の5時もしくは6時の終了。休憩時間にはおにぎりを食べたりしてしっかり休憩を取ります。しかし、電車やバスの始発時間が迫ると通行規制が解除される「限られた時間」というプレッシャーもあってか、施工スピードがいつもより一段と早くなったそうです。

馴染みのない現場ではありましたが、現場監督さんにも良くいただき、とても仕事のしやすい現場だったとか。

注目度の高い駅ナカの商業施設のオープンやGWも相まって、地方テレビを賑わせ話題になっている新潟駅ですので、映像を目にするたびにちょっと自慢したくなる、記憶に残る仕事になったようです。

## プロモーション動画を作成 / 5月 ドローン撮影部門「RISE SHOOT」始動!



社名変更2年目の5月、新期の始まりと共にドローン事業部門も名称とロゴマークを作成し、ブルゾンとベストにプリント。本格的に動き始めました。

年明けから少しずつ準備をはじめ、雪解けにはドローンのテスト飛行及び訓練を行いました。

会社の敷地内で現地調査を想定し、社屋の屋根や外壁、雨樋の観察飛行をして、撮影時の注意事項などをシュミレーションします。

F君はあくまで操縦士なので調査ポイントの指示役の営業と一緒に撮影、敷地への侵入者を管理する補助役が2名程度必要なので、現地調査の場合は基本4名で行動することになります。

ドローンのバッテリーは45分の撮影が可能ということになっていますが、動画と写真、風圧や高度の違いで消費電力が異なる上、バッテリー残量



▲ドローンで撮影した加治川河川敷の桜並木風景

が20%を切ると自動的に始動地点に戻ってくるようにプログラミングしてあります。ということは、バッテリー1本20~30分の撮影で撮影料金は…、河川での撮影の許可はどこに申請?…など、やってみないとわからないことはたくさんあるようで課題は山積みです。

HPには基本料金やプロモーション動画、デモ撮影の動画などもご覧いただけるよう随時改定いたしますのでご覧ください!(YouTube、インスタにもアップしております。)

## 建設業許可に大工工事追加! / 2月 実はブロック工事、消雪用井戸工事もやっています

昨年末に申請していた建設業許可が2月に正式に認められ、建築板金業に必須の工事業である「屋根/板金/タイル・れんが・ブロック」の他、令和2年に追加した「とび・土工」に加え、今回「大工」も工事業に追加したことで木工事を伴う建築板金工事はもちろん、500万円以上の木工事も請け負い可能となりました。

4月からベテラン大工であるWさんが入社し、さらに建物に関するお困りごとや様々なニーズに、よりスピード感と自信をもってお応えできるようになりました。

また、以前より施工経験のあったブロック塀の撤去・新設工事やフェンス増設工事、消雪用井戸工事やシロ



▲完成したK邸のフェンス付きブロック塀(高さ1.0m、長さ18.4m)

アリ駆除工事、窓リフォームなどの発注が格段に増え、昨年春の社名変更時に掲げた「板金業の枠を超える対応力」という未来予想図を着実に実現しつつあります。

住まいのお困りごとがあった時に「どこに頼んだらいいのかな…?」と、お悩みになるとよく耳にしますが、そんな時には是非シヤライズへお気軽にご相談ください!



## スカイライトチューブ 一般住宅リフォームと福祉施設新築に複数台の設置



▲施設屋根部分/ガルバリウム鋼板の立平葺き屋根にスカイライトチューブを3台設置

春の完成に向けてスカイライトチューブ(SLT)の複数設置工事案件が続きました。

新発田市内の一般住宅リフォームに2台と、胎内市の指定障害福祉サービス施設に3台の設置です。

一般住宅の方はSLTの協力企業でもある建築会社さんの工事で、3世代同居のリフォームを繰り返した大きなお宅です。小学生のお子さんたちの成長に合わせて居室を作りながら、階段などの導線も大掛かりに改修するというもの。

瓦屋根の頑丈な入母屋のお宅は屋根が大きく、奥まった2階に作る

居室には窓があるのですが光が届きづらいだろうとSLTを設置し、もう1台は2階の屋根からパイプスペースを設けてチューブを降ろし、1階の廊下の天井で散光します。

この廊下は増築に伴い窓がない場所なので真っ暗。ここに太陽光を取り込むことで日中の煩わしさを解消しました。

もう一方の胎内市の案件は、指定障害福祉サービス事業所の老朽化による新築移転工事で、小野組さんの元請による屋根及び外壁の板金工事と3台のSLT設置工事です。平屋建ての屋根裏に大きな倉庫スペースを設けた軒裏の曲線のデザインが印象的な建物は、大きな平屋建て



▲施設内部/手洗い場前の中廊下にスカイライトチューブを設置

だけに暗くなりがちな中廊下を中心にチューブを設置しましたが、一般住宅と違って天井裏に設備関連のダクトがたくさんあり、すんなりとチューブが下しきれないところもありましたが、そこは設置経験で難なくカバー。作業室は窓がたくさんあって明るく作業しやすい空間になっていますが、廊下もSLTの導く自然光で明るくなりました。

## ともしば登録事業所 第1号となりました! / 4月 高齢者等あんしんサポート事業所登録制度 「ToMoNi Shibata」に賛同し、講習を受けました

「ともしば」とは、「ToMoNi Shibata (ともしばた)」の略で、新発田市で令和5年度より創設した高齢者等に対する理解を深め、サポート・応援する取り組みを積極的に行う店舗や事業所を募集し、その活動を市民に広く知っていただくというものです。

当社はこの、「高齢者や認知症の人とそれを支える家族が、住みなれた地域で安心して暮らせる「地域共生社会」の実現を目指す」という取り組みに賛同し、認知性サポーター養成講座を3月に受講、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりのひとつとして「高齢者等あんしんサポート登録事業所 第1号」となりました!

講座では、認知症に限らず不安そうな行動をしている方に心地よくコミュニケーションをとるための声掛けのコツを、講師の方々が役になり

きり、視覚的にわかりやすく説明してくださいました。

実際に屋外の現場で工事をしていると、お年寄りが道に迷ったり、転倒するなどして身動きが取れなくなっている場面に出くわす時があります。そんな時に適切な、①驚かせない ②急がせない ③心を傷つけない“声掛け”と、場合にに応じた対応の仕方を教わりました。

これより当社は、本社や社員寮周辺、工事現場や訪問先での見守りや積極的な声かけと関係機関との連携を進んで行って参ります。

頂いたステッカー▶



## 板金折り紙教室 各種イベントや出張教室の依頼も承っております!

板金折り紙教室は当社2階で毎月開催中ですが、菅谷コミュニティーセンターでの出張教室(2/8)、敬和大学主催のまちづくりフェスタへ出展(2/28)、新発田商工会議所と新発田市専門店協同組合主催のまちゼミに参加(5/17・18)致しました。

最初は自社でこぢんまりと開催していた教室ですが、商工会主催のイベントから市や県の公的機関や小中学校からの依頼も増え、最近では町内会開催の地元密着イベントの依頼も頂くようになりました。

この度ご依頼いただいた菅谷コミュニティーセンターの教室のタイトルは、「コタツを出てコミセンに集まろう! 出張板金折り紙教室」で、冬季のコミュニケーションの場づくりが目的でした。

このように板金折り紙の新たなファン開拓ができて、建築板金業の



周知に繋がることは嬉しいですが、なによりも地域の皆様のお役に立てる機会が増えた事は、地域に育てられ共に歩んでゆく会社としてはとても嬉しいことです。お申し込みやご相談を頂くたび、感謝の気持ちでいっぱいになります。

板金教室は、各種折り紙やネームプレート、トレイなど状況に合わせて選択可能ですし、公的機関や団体に限らず、仲の良いお友達グループでお申し込み頂くこともできます。

これからも時間が許す限り積極的に開催して参りますので、どうぞよろしくお願いたします!

## 新潟日報さんに感謝 社名変更後の初年度で3回の新聞掲載!

### 昇り竜の年に

当社の新聞掲載が続いています。

1月12日には辰年にちなんだものとして「板金折り紙の辰」を、2月24日には敬和学園大学主催の

「まちづくりフェスタ」に出展した様子を写真付きで掲載していただきました。

これは昨年社名変更して間もなくの6月1日に、電力料金値上げに太陽光を利用したSDGsな明りの提案としてスカイライトチューブを取り上げていただいて以来、なんと今期3度目の快挙!です。以前こちらから新聞

う自信だ。建築板金を理解してもらい会社のPRにもつなげようと思った「板金折り紙」。作品数も増え、一般向けの教室にはこれまで延べ1500人超が参加した。1月25、26日にも同社で開催予定。参加費1000円。問い合わせは同社、0254(28)7183。

### 技術の粋 板金「折り紙」



きらびやかさと小さいながら武骨な迫力。精巧な竜の「折り紙」だが、紙ではなく銅と真ちゅうの金属製だ=写真=。建築板金を主力事業とするシヤライズ(新発田市切梅)が、本業の傍らで制作している。板金技術を生かし、切るのも折るのも職人が使う専用道具を用いる。折り直しができず銅板の厚み(0.2mm)を考慮する必要があるなど独特の技術がある。干支に合わせた新作は、社員の池田かおりさん(51)が考案制作したオリジナルデザイン。金属の特長を生かして角や爪、ひげを表現した。干支の制作は5年目になるが、「形も複雑でこれまで一番難しい」とい

敬和学園大学の学生が企画し、市内外の企業・団体のブースが設けられた「まちづくりフェスタ」=23日、新発田市中央町3

企業情報、地域防災を発信  
新発田 敬和学園大学、フェスタ主催

新発田市の敬和学園大学 心にアピールした。の学生が企画し、市内外の企業や団体の職員などが日頃の活動や地域防災などを紹介する「まちづくりフェスタ」が23日、市役所庁舎1階の札の辻広場で開かれた。出展した企業・団体のブースに多くが来場者が訪れ、出展者側がものづくりの現場の取り組みや自然災害への備えの大切さを熱く

新発田市の敬和学園大学 心にアピールした。の学生が企画し、市内外の企業や団体の職員などが日頃の活動や地域防災などを紹介する「まちづくりフェスタ」が23日、市役所庁舎1階の札の辻広場で開かれた。出展した企業・団体のブースに多くが来場者が訪れ、出展者側がものづくりの現場の取り組みや自然災害への備えの大切さを熱く

敬和学園大学の学生が企画し、市内外の企業・団体のブースが設けられた「まちづくりフェスタ」=23日、新発田市中央町3

は、銅板と真ちゅう板で作った「板金折り紙」のツールなどを展示。板金の工作体験コーナーを設けて自社をPRした。国土交通省板金山系砂防事務所は、1967年に発生した羽越水害のパネル展示や防災講演を行い、防災意識の向上を訴えた。学生たちは飲食物を販売したり、子ども向けの段ボール迷路を作ったりして会場を盛り上げた。副ゼミ長で4年の鎌田逸希さん(22)は「企業や団体の協力で開催することができた。学外イベントの準備は大変だったが、たくさんの方が来てくれて良かった」と話した。

▲新潟日報 2月24日に掲載。「まちづくりフェスタ」に出展した様子を写真入りで取り上げていただきました。